



栃木県市町保健師業務研究会

保健師だより

発行
栃木県市町保健師業務研究会
令和7年3月1日
第18号

《 会 長 挨拶 》



栃木県市町保健師業務研究会 会長 橋本 美羽（栃木市）

早春の候、会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より本会の活動にご理解、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

保健活動において皆様は、急速な少子高齢化や人口減少、単身世帯の増加など人口構造の変化に伴う住民の健康課題と向き合い、住民のニーズが高度化、多様化していく2040年を見据え、それぞれの職場や立場で方策を考え、保健師の専門性を発揮すべく地道な努力を重ねていることと推察いたします。また、記録的猛暑や多雨など地球温暖化による新たな健康危機にも対応し、そして、昨年の能登半島地震のような大規模災害につきましても、被災地における保健活動を参考に対策を整備するなどご尽力されていることと思います。

昨年9月に保健師関連3学会（日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会、日本公衆衛生看護学会）のコラボ企画でライブ配信された「保健師のコア★ 実践活動で確認しよう！」を視聴いたしました。行政部門からは大阪市の百歳体操を見直した事例について紹介があり、取組のプロセスを振り返りながら、保健師としての価値・模範となる根源的な考え方や中核となる能力について解説がされておりました。自分たちの活動を振り返りその意義や意味を改めて認識することは、保健師に求められる役割が増大している中で、モチベーションを保ち続けるために必要なことであると感じました。

本会のスローガンは、『地域を「見る」「つなぐ」「動かす」住民力を引き出す保健師活動を展開していきましょう』『保健師同士の「つながり」を再構築し、市町保健師としての知識、技術、専門性を高め合いましょう』です。多忙な中においても、保健師活動のコアを意識し、「よかったこと」や「できていること」にもあえて目を向け、仲間同士認め合いながら保健活動を推進していきましょう。

最後に、昨年10月に実施した本会の研修会及び調査研究に関するアンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。アンケートを参考に皆様の活動にお役に立てるような企画を準備したいと思います。

今後も本会の充実のために役員一同協力し取り組んで参ります。引き続き変わらぬご協力をお願い申し上げます。



《令和6年度 調査研究班活動報告》

副会長 齋藤 晃子(日光市)

調査研究班では、令和5年度から6年度にかけて、「市町の産後ケア事業の実態調査」をテーマに取り組んでまいりました。

産後ケア事業は、出産後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等きめ細かい支援を行い、産後も安心して子育てができる支援体制を確保することを目的に、市町村が主体となり実施している事業ですが、委託先確保の困難さや市町を越えた複数の事業所との契約事務の煩雑さ、事業の利用要件や社会資源の違い等から生じる利用状況の差等、事業実施において様々な課題が生じているのではないかとの思いから、5つの仮説を立てて調査を行いました。

調査は、県内25市町の産後ケア事業担当者を対象に、電子メールにて調査票を送付・回収する方法で行い、全市町から回答を得ることができました。その後、調査票の内容確認や集計、課題検証等を行いました。その作業を通じて、各市町が試行錯誤、創意工夫しながら産後ケア事業に取り組み、充実を図っていることが伝わってきました。

一方、事業所との委託契約の広域調整やメンタルヘルスの課題等、市町単独では対応困難な様々な課題が明確になりましたが、これらに対する県による広域的、専門的、調整的支援が行われる事への期待感も感じられました。

調査結果は後日、県内市町に送付いたします。この調査結果が、県内市町の産後ケア事業の充実と発展の一助になれば幸いです。

最後に、調査研究を進めるにあたりご協力下さいました会員の皆様に感謝申し上げます。また、終始、ご支援と温かいご助言を下さいました事務局の方々、ご多忙の中、調査開始から結果書作成まで丁寧なご指導を下さいました国際医療福祉大学保健医療学部看護学科長 家入香代教授に心から感謝申し上げます。

《令和6年度 研修広報班活動報告》

副会長 今里 澄江(足利市)

研修広報班では、保健師同士のつながりの構築や保健師活動を展開するための資質向上を目指して、研修会の主催と全国規模学会等への参加支援、「保健師だより」の発行を行っています。

今年度の研修会は、コロナ禍において縮小されていた対人援助に焦点をあて、3回を1つのシリーズとして、国際医療福祉大学の家入教授に講師をお願いしました。

2回目、3回目の内容は、対象者として、特に、中堅期の方が参加したいと思えるような研修にしたいという思いを持って企画し、多くの方に参加していただきました。家入教授は「教養は、実践して力になる」と話されました。実践のため、ぜひ職場内で共有し、面接等の流れを検討してください。

次年度に向けては、過日皆さんからいただいた希望を参考に、この会らしさのある研修を実施していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

●令和6年度実施研修会



第1回研修会 「公衆衛生活動を行うために必要なこと」

講師：国際医療福祉大学保健医療学部 看護学科 学科長 家入 香代氏

今年度の第1回研修会は、保健師活動の根幹である「公衆衛生活動」についてご講義いただきました。

公衆衛生とは、公衆（全ての住民）の命（生）を衛ることであり、個々の健康状態や取り巻く環境をきめ細かく捉えながら、地域の課題の視点や予防的観念をもつことの重要性について、わかりやすい具体的な事例を通してお話がありました。また、目的を明確にし、それを意識することが大切で、業務はもちろん目指す保健師像にも明確なVISIONをもって

いこうというお話は、私たち保健師のモチベーションの向上や明日への活力につながりました。日々、余裕なく業務をこなしている保健師も多い中で、保健師活動の原点について学ぶことができた大変有意義な研修会でした。

第2回研修会 「対人援助の基礎Ⅰ」

対人援助をテーマにした家入先生の研修会の2回目では「対人援助の基礎Ⅰ」として、相談援助の考え方と個別面接（インテーク面接）の方法について講話をいただきました。

まず、相談援助の目標は、「危機を乗り越え精神的に成長すること。」であると共通認識したうえで学びを進めていきました。そして、危機に関連する4つの要因として①本人の要因②家族の要因③支援者の要因④環境の要因があるため、それぞれの職場でもこの軸を共有して支援について考えていくことを教えていただきました。

援助の方法についての講話で印象的だったのは「サービスにつなぐだけでは専門職ではない。」という言葉です。研修会以降私は、「この経験を経ることで、この方は今後自分の力で危機を乗り越えることができるだろうか。」と常に考えるようになりました。

このように、対人援助について学ぶとともに保健師として気を引き締めなおす機会にもなった研修会でした。



第3回研修会 「対人援助の基礎Ⅱ～インテーク面接の実際～」

インテーク面接の実際を、「情報収集」「アセスメント」「援助方針の立案」の視点で講話をいただきました。「情報収集」とは、本人の言葉にならない真のニーズを導き出すことが目的であり、情報収集のポイントとして、本人の気持ちと事実（状況）を分けて聴取することや、ジェノグラムを作成しながら家族の情報を聴取すること等、具体的な手法を学ぶことができました。また、「アセスメント」とは、本人から得た情報を、本人・家族・

環境・支援の4つの要因で分析すること、「援助方針の立案」とは、クライアントを見極め、具体的な援助方法の契約を結ぶことであり、本人の合意を得た上で、危機が増大する要因へアプローチし、危機を軽減させることが大切とのお話がありました。面接場面を複数の段階に分けて考え、それぞれの目的を意識しながら、支援を行うことの大切さを学ぶことができました。今回の研修は、先生のこれまでの経験を踏まえた具体的なエピソードも多く、参加者の興味が引き付けられる研修となりました。また、アンケート結果からも、今後の保健活動に活用できるとの意見が多く、大変有意義な研修となりました。

●全国規模学会等参加支援の結果

学会等名	開催場所	日程	支援先
第83回日本公衆衛生学会総会	北海道札幌市 (現地開催)	令和6年10月29日 ～10月31日	1市町 (1名)
第13回日本公衆衛生看護学会学術集会	愛知県名古屋市 (ハイブリッド開催)	令和7年1月4日 ～1月5日	6市町 (各1名)

《会員の皆さまへ》

本会は市長会及び町村会からの負担金並びに国保連合会からの交付金により事業が運営されており、調査研究や研修会を行い、住民の健康の保持増進と公衆衛生の向上に寄与するため、保健師の資質向上を目的に活動しております。

会員の皆さまにおかれましては、ご意見・ご要望等がございましたら所属支部の役員へお知らせください。

《役員からの一言》

	ブロック	役員	コメント
会長	県南 (栃木)	橋本 美羽 (栃木市)	任務を通して会の活動を改めて知り、役員の方々が活動推進のために尽力されている姿に心から素晴らしいと感じました。次年度も力を合わせて、会員の皆さまのご要望にお応えできるよう研修や調査を実施してまいります。
研修広報班	安足	今里 澄江 (足利市)	2年間活動させていただき、市町保健師の活動について再確認する機会となりました。これからも、この会に関わるみなさんと、保健師活動を支え、高め合えればと思います。ありがとうございました。
	宇都宮	大草 千絵 (宇都宮市)	研修会では多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。今年度から役員となり、不慣れなことも多いですが、会員の皆様の思いを反映した活動ができるよう努力してまいります。
	県西	上澤 美佳 (鹿沼市)	他市町の保健師の方と交流ができ、良い刺激を受け、保健師として学びを深めることができました。次年度も、役員として精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。
	県東	戸田 麻子 (益子町)	他市町、国保連合会の職員さんと交流を持てる場に参加させていただき、保健師として良い経験を積ませていただいています。次年度も研修広報班として、皆様の業務の一助となりますよう努めてまいります。
	県南 (栃木)	落合 有美 (壬生町)	研修会や役員会をとおして他市町の保健師さんとの“つながり”を持てたことに感謝しております。この機会をこれからの保健師活動に活かしてまいります。2年間ありがとうございました。
調査研究班	県西	齋藤 晃子 (日光市)	令和5年度と6年度の2年間、副会長を務めさせていただきました。大過なく務めることができたのはひとえに会員の皆様、事務局の方々のご支援とご協力の賜物と深く感謝しております。ありがとうございました。
	県南	加藤 綾子 (上三川町)	調査研究班で取り組んだ過程は、大変勉強になり、日頃の保健師活動や保健事業の評価方法等を振り返る機会になりました。調査結果について、皆さまの業務にお役立ていただければ幸いです。2年間ありがとうございました。
	県北	中村 麻美 (大田原市)	他市町の保健師さんと交流を持てる場に参加させていただき、日々学ばせていただきました。各市町会員の業務にお役立ていただければ幸いです。
	県北 (矢板・烏山)	齋藤 史江 (高根沢町)	他市町の保健師の方々とは接する機会をいただき刺激を受けながら、なんとか無事に幹事を努めることができました。今回の調査研究が皆さんの活動に少しでも役立ていただけたら、嬉しく思います。
	安足	中田 千絵 (足利市)	調査研究班を担当させていただき、2年間かけてじっくりとテーマに向き合い、メンバーの皆様と調査を進めていく中で多くの学びがあり、大変良い経験になりました。



編集後記

令和6年度も終わろうとしています。皆さんにとってどんな1年でしたか。その年の世相を表す漢字が2024年は「金」でした。パリオリンピック・パラリンピックの日本人選手の活躍に多くの方が感動を受け、心に刻まれた結果かもしれません。

保健師活動を通して、困難にぶつかることや思い悩むこともあるかと思いますが、そんな時、職場で気軽に相談できる環境がとても大切だと実感しています。また、市町保健師業務研究会を通じ、同じ保健師という仲間が多くいる事がとても心強く感じます。

私たち、保健師もひとりひとりが職場で活躍し輝けるように、新年度も頑張っていきたいと思います。